

グループ診療対応（解説）

1. グループ診療とは

ver4.0.0 よりグループ診療機能が実装されました。

グループ診療とは、1つの「日レセ」システムで複数医療機関の運用を可能とする機能のことを指します。

【留意事項】

本機能を物理的に離れた医療機関同士で利用することは、いわゆる診療録等を外部機関で保存することにあたります。医療機関等であれば診療録等を外部機関に保存することが可能ですが、サーバ等の置き場所については医療法人等が適切に管理する場所に置くなど、注意が必要です。

また、組織の外部と医療情報を交換することになりますので、ネットワークのセキュリティについても十分な注意が必要です。

これらについては、

「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第5. 1版」（令和3年1月）

<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000516275.html>

外部保存を業者に委託する場合には、

「経済産業省 医療情報を受託管理する情報処理事業者向けガイドライン」

https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/privacy/iryouglv2.pdf

に詳細が記述されていますので、遵守の上、本機能をご利用願います。

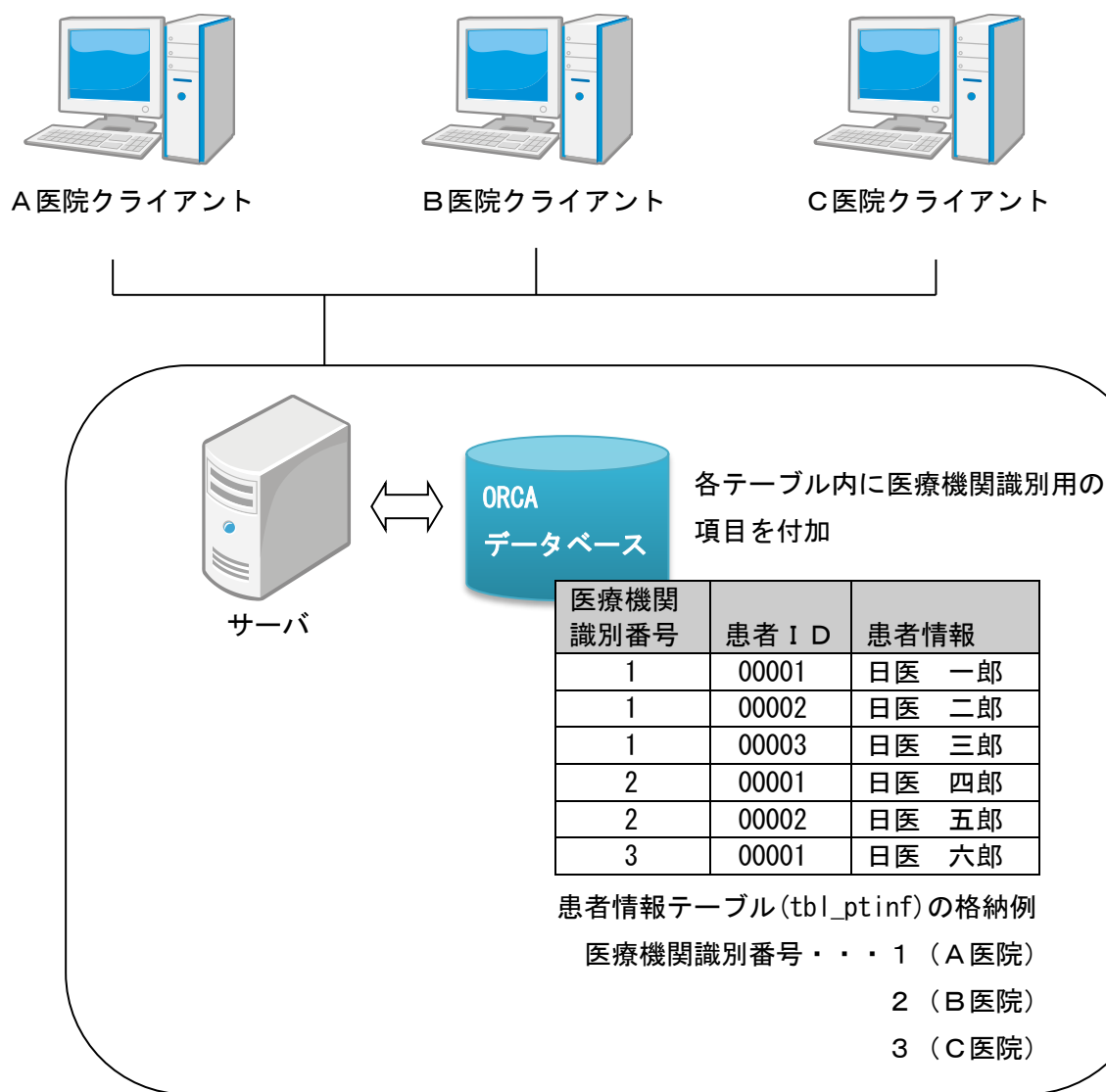
グループ診療対応（解説）

2. グループ診療対応の概要

グループ診療対応の概要について説明します。

- ・ 基本的な仕組みとして、一つのデータベース（orca）で各テーブルも一つ（tbl_ptinf 等）とし、各テーブル内に医療機関を識別する I D を格納することにより実装します。
- ・ 1 システムで複数医療機関の運用が行えます。
- ・ 1 システム内で複数医療機関のデータを管理する為、バッチ処理（レセプト処理）の同時処理を可能とします。

システム概要図



3. グループ診療の管理

グループ診療の設定をテーブルにより管理します。（管理用テーブルの新設）

システム基本テーブル：tbl_sysbase

管理項目

- ・グループ番号 … テーブル管理上の番号（キー）
- ・医療機関識別番号 … 医療機関を識別する番号（hospnum と同期）
- ・医療機関識別名称 … テーブル管理上の便宜を図るための医療機関名称
- ・運用期限 … 医療機関の運用を行う期限
- ・本院分院グループ番号 … 本院分院のグループを管理する番号（システム内に複数の本院分院の組合せを構築できるように考慮）
1からの連番で設定を行います。
- ・本院分院区分 … 本院分院の関係がある場合に本院または分院を識別
0：本院分院でない
1：本院である
2：分院である

グループ番号	医療機関識別番号	医療機関識別名称	運用期限	本院分院グループ	本院分院区分
1	1	A 医院	99999999	0	0
2	2	B 医院	20041231	0	0
3	3	C 医院	99999999	1	1（本院）
4	4	C 医院 新宿分院	99999999	1	2（分院）
5	5	C 医院 赤坂分院	99999999	1	2（分院）
6	6	D 医院	99999999	2	1（本院）
7	7	D 医院分院	99999999	2	2（分院）

システム管理 1001 医療機関基本情報

医療機関識別番号	管理番号	区分番号	有効期間	名称	医療機関番号
1	1001	*	0-0 ～ 9-9	A 医院	11111111
2	1001	*	0-0 ～ 9-9	B 医院	2222222
3	1001	*	0-0 ～ 9-9	C 医院	3333331
4	1001	*	0-0 ～ 9-9	C 医院 新宿分院	3333332
5	1001	*	0-0 ～ 9-9	C 医院 赤坂分院	3333333
6	1001	*	0-0 ～ 9-9	D 医院	4444441
7	1001	*	0-0 ～ 9-9	D 医院分院	4444442

システム基本テーブルは、パッケージのインストール、アップグレードにより作成されます。初期データとして医療機関識別番号「1」のレコードが1件登録されています。これにより1医療機関の運用が可能となります。また、医療機関識別番号「1」が基本となりますので変更または削除はしないでください。

グループ診療対応（解説）

※医療機関識別番号「1」が存在しない場合は運用できません。

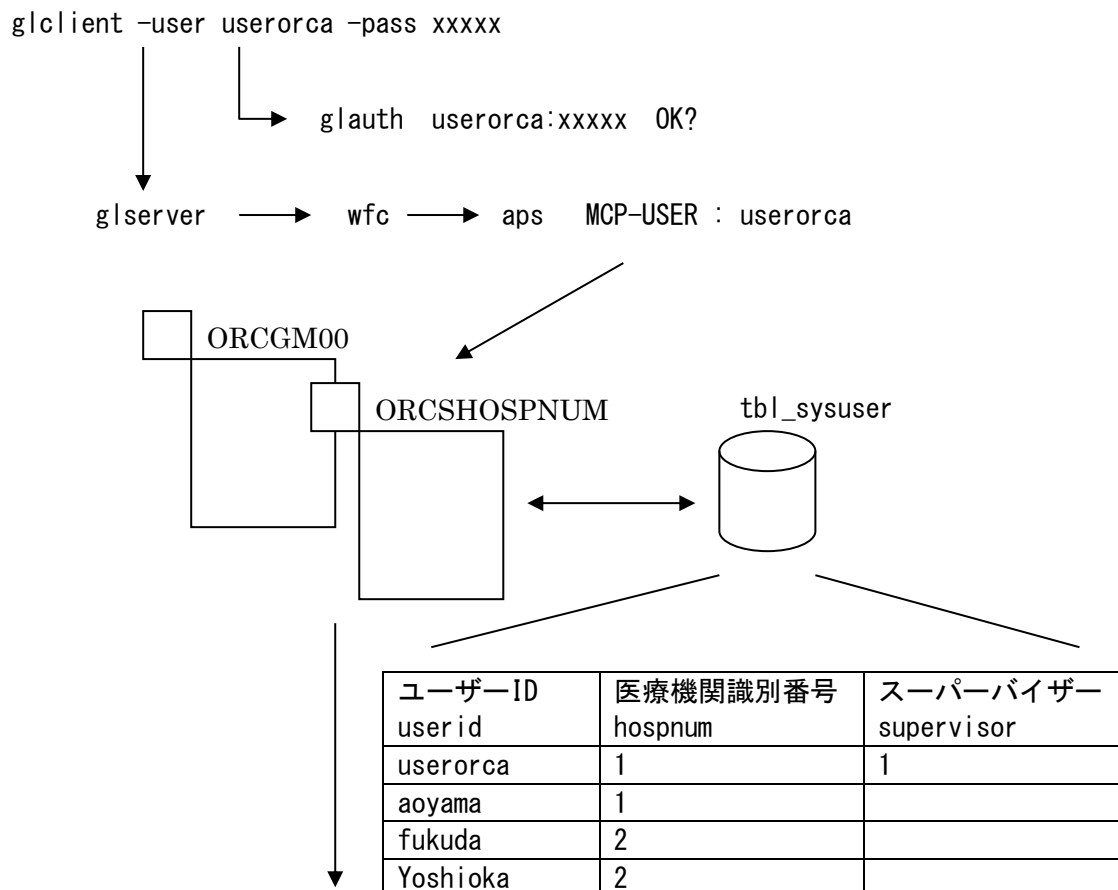
4. データ参照保護

医療機関のデータ参照における接続端末の識別は、以下の方法により行います。

ユーザーID 命名規約 … 特に制限はなし。

gluseradd コマンドで登録できるユーザーID であること。

システム内でユニークである必要がある。



SPA-HOSPNUM : 1

（医療機関識別番号：01 を参照する。）

システムユーザーテーブル : tbl_sysuser

管理項目

- ・ユーザーID … glclient を通じてログインするユーザーID（オペレーターID）
- ・医療機関識別番号 … 医療機関を識別する番号（hospnum と同期）
- ・スーパーバイザー … システム全体の管理者を識別

スーパーバイザーの特権は、プログラム更新とマスタ更新における共有マスタの更新が可能となることです。よって、1 システム内にスーパーバイザーがたくさんいることは避けるべきであり、

グループ診療対応（解説）

可能であれば一人が望ましいです。

システムユーザーテーブルは、パッケージのインストール、アップグレードにより作成されます。初期データはシステム管理テーブルの職員情報に登録されているオペレーターIDに対し医療機関識別番号を「1」として登録します。オペレーターIDに `ormaster` がある場合は、それをスーパーバイザーとして登録します。

※初期データでシステム管理テーブルには管理者として登録されていてもスーパーバイザーとはいたしません。

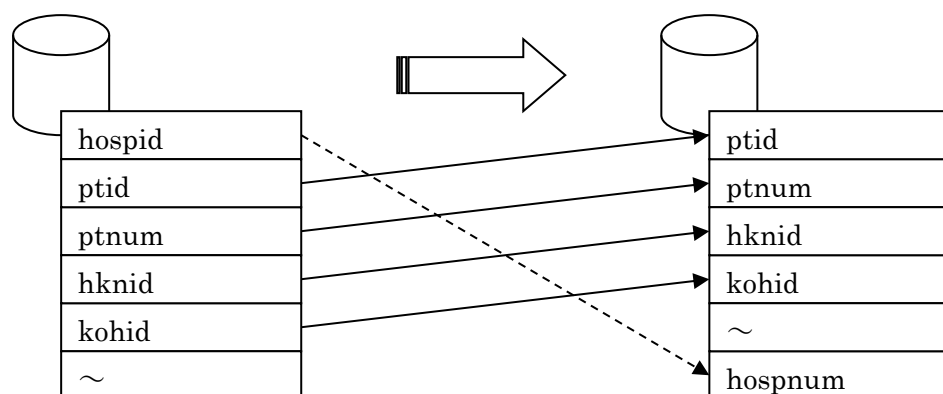
5. テーブルスキーマ変更

各テーブルは以下の変更を行います。

（１）医療機関 ID (hospid) 列が存在する場合

`hospid` 列が存在するテーブルは、`hospid` を `hospnum` へ変更します。

（例）患者番号テーブル(tbl_ptnum)



（1）hospnum 列の追加（integer）

```
alter table tbl_ptnum add column hospnum integer ;
```

（2）hospid 列の削除

```
alter table tbl_ptnum drop column hospid ;
```

※プライマリキー、インデックスで `hospid` 列を設定しているものは削除される。

（3）hospnum 列に初期値（1）をセット

```
update tbl_ptnum set hospnum = 1 ;
```

（4）プライマリキーを作成

```
alter table tbl_ptnum add constraint tbl_ptnum_primary_key primary key  
(hospnum, ptid) ;
```

`hospid` 列を削除し、`hospnum` 列を追加します。よって、テーブル内での列順序は変更となります。

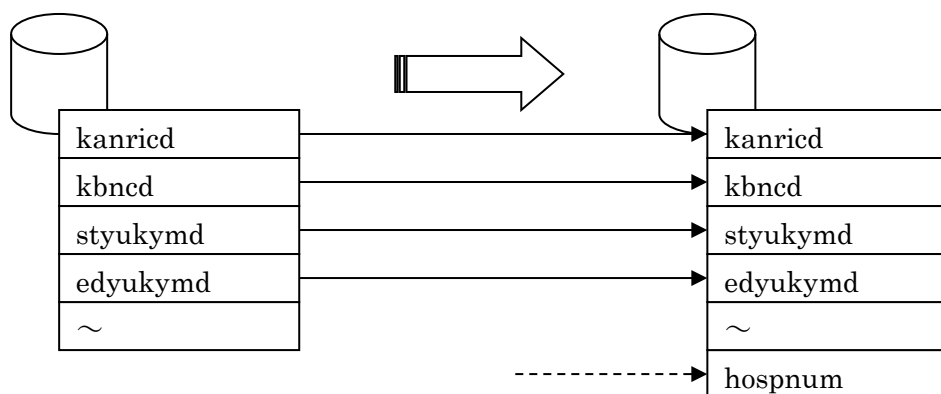
グループ診療対応（解説）

また、パッケージのインストール、アップグレードにより hospnum 列には初期値として 1 が格納されます。

（２）医療機関 ID (hospid) 列が存在しない場合

hospid 列が存在しないテーブルは、 hospnum を追加します。

（例）システム管理(tbl_syskanri)



(1) hospnum 列の追加 (integer)

```
alter table tbl_syskanri add column hospnum integer ;
```

(2) hospnum 列に初期値 (1) をセット

```
update tbl_syskanri set hospnum = 1 ;
```

(3) プライマリキーを削除

```
alter table tbl_syskanri drop constraint tbl_syskanri_primary_key ;
```

(4) プライマリキーを作成

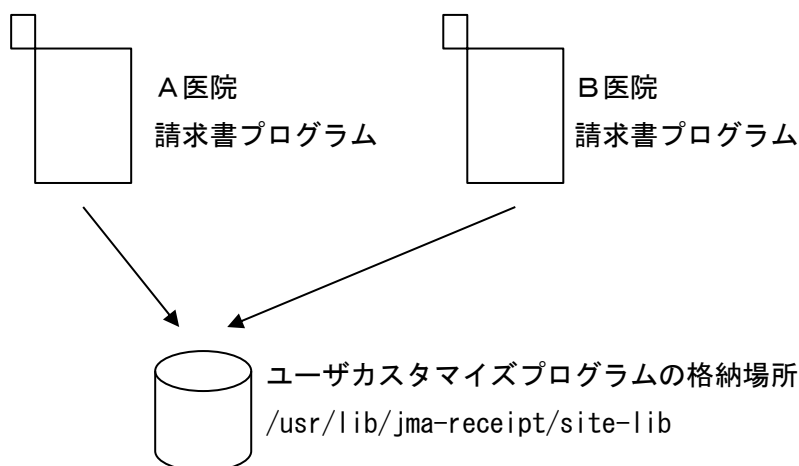
```
alter table tbl_syskanri add constraint tbl_syskanri_primary_key primary key  
(hospnum, kanricd, kbncd, styukymd, edyukymd) ;
```

パッケージのインストール、アップグレードにより hospnum 列には初期値として 1 が格納されます。

6. ユーザープログラムの修正

ユーザーにより作成されたプログラムは、グループ診療対応に合わせた修正を行わなければ動作しなくなります。（暫定的な救済措置は、今後のためにも行ないません。）

また、医療機関別に請求書兼領収書などのカスタマイズプログラムが存在する場合は、プログラム名を医療機関毎に別名としそれぞれ作成する必要があります。



格納場所については今までと同様にする為、プログラム名が重複した場合、どちらかの医院のプログラムが無効となってしまいます。帳票のフォームIDについても同様です。

ユーザープログラムの修正内容については、別紙「カスタマイズプログラムのグループ診療対応（共通）」など各種ありますのでそちらを参照してください。

7. ユーザー起動プログラム

ユーザー起動プログラムでは、システムからシェルスクリプトを起動する際に医療機関識別番号をパラメータとして渡すように変更しています。

ユーザープログラム側では、パラメータにより通知された医療機関識別番号を使用してテーブルアクセスを行うように変更する必要があります。変更方法の詳細は別紙「カスタマイズプログラムのグループ診療対応（共通）」など各種ありますのでそちらを参照してください。

8. プログラム更新

パッチプログラムの適用は、「4. データ参照保護」で説明しましたスーパーバイザー特権をもつユーザーのみが実行できます。医療機関毎のシステム管理者権限（システム管理テーブルで登録する権限）では実行できないようにします。

9. マスタ更新

マスタ更新は、各医療機関で随時実行できます（現行通りとする）。

ただし、共有マスタについては、「4. データ参照保護」で説明しましたスーパーバイザー特権をもつユーザーが実行した場合に適用されます。医療機関毎のシステム管理者権限（システム管理テーブルで登録する権限）では共有マスタは適用されないようにします。

※共有マスタ … 病名マスタ、検査分類マスタ、相互作用マスタ、症状措置マスタ、適応病名マスタ、一般名マスタ、包括チェックマスタ、包括診療コードマスタ

10. 外部システム連携

グループ診療での CLAIM 接続による医療機関識別は以下のように mmIcM に施設 ID として医療機関 ID を設定することにより行います。

```
<mmIcM:Id mmIcM:type="insurance" mmIcM:tableId="MML0027">  
    JPN0000000000000  
</mmIcM:Id>
```

また、ODBC 接続などにより外部から直接データベースにアクセスする場合は hospnum を考慮したアクセス方式に変更しなければいけません。

11. 医療機関の追加設定方法

2 つ目以降の医療機関を追加する方法を説明します。

(1) orca データベースのバックアップを行います。

追加処理により orca データベースを更新します。処理を行うと元の状態には戻れませんので、バックアップを採取します。

```
$ sudo -u orca pg_dump -Fc orca > orca.dump (バックアップファイル名は任意です)
```

(2) admin ユーザー ID の有無を確認します。

処理スクリプトにより追加医療機関の臨時の管理者として admin ユーザー ID を追加します。ユーザー ID の重複は許されませんので既に admin ユーザー ID が登録されていないか確認します。

```
$ sudo -u orca psql orca  
orca=> select * from tbl_sysuser where userid = 'admin' ;  
~  
(0 rows)  
orca=> \q
```

結果が 0 件であれば登録はありません。

グループ診療対応（解説）

(3) 追加処理スクリプトを以下よりダウンロードします。

※日医標準レセプトソフトのインストールドキュメントにある認証設定ファイルの作成が正しく処理されていることが必要です（以下、同じ）。

```
$ wget https://ftp.orca.med.or.jp/pub/etc/tools/hospadd-ver520.tgz
```

(md5sum 72fdeed57570b3d387ead87e23a0b456 hospadd-ver520.tgz)

※このファイルは日レセバージョン 5.2.0 に対応したものです。

(4) 日レセを終了します。

```
$ sudo systemctl stop jma-receipt
```

(5) ファイルを解凍します。

```
$ tar xvzf hospadd-ver520.tgz
```

(6) 追加処理を行います。

```
$ cd hospadd-ver520  
$ sudo ./jma-receipt-db-hospadd.sh 2
```

オプションの 2 は追加する医療機関識別番号です。医療機関識別番号は必ず連番で追加するように指定します。

```
NOTICE: orca データベースは存在します。  
version 5.2.0 グループ診療 医療機関の追加処理を行います。医療機関識別番号 : [2]  
よろしいですか？ (y/n)
```

y を入力して Enter キーを押します。

```
DATABASE orca ENCODING [ EUC_JP ]  
- tbl_adrs -  
~  
VACUUM 処理を行いますか？ (y/n)
```

y を入力して Enter キーを押します。

(VACUUM 処理は時間がかかりますが、行うことを推奨します。)

```
WARNING: skipping "pg_authid" --- only superuser can vacuum it  
:  
WARNING: ~  
処理はすべて終了しました。
```

“処理はすべて終了しました。”とメッセージが表示されたら処理終了です。

(7) 日レセを起動します。

```
$ sudo systemctl start jma-receipt
```

(8) 追加処理で作成された臨時管理者ユーザーID admin パスワード admin で日レセに接続します。

※追加医療機関のユーザーID でログインした場合は、マスターメニューの「03 プログラム更新」ボタンが非活性となります。

(9) システム管理の管理番号 1010「職員情報」から追加した医療機関の管理者となるユーザーID（画面項目：オペレータ ID（admin 以外））を作成します。

○追加された admin を変更する場合

「5 管理職」の「0001 管理者」を呼び出しオペレータ ID admin を別名に変更します。その他の項目を変更してもかまいません。

○「5 管理職」の「0001」以外の職員番号で作成する場合

管理者となる職員情報を作成します。

正しく作成できたら「5 管理職」の「0001 管理者」を呼び出し「削除」ボタン(F3 キー)で削除します。

一度ログアウトします。（終了する場合にメニュー画面のボタンは非活性の状態になります。）

(10) 新しい管理者ユーザーで日レセに接続します。

(11) 以上で追加処理は終了です。この後は、システム管理の医療機関基本情報など通常のセットアップを行います。

※医療機関 ID も設定します。

1 2. 医療機関の併合設定方法

2 目以降として医療機関を併合する方法を説明します。

12-1 併合元のデータ準備

(1) ormaster 以外でマスタ管理者が少なくとも 1 人存在しなければいけません。存在しない場合は作成します。

新規作成する場合や既にマスタ管理者が存在する場合でも、併合先システムに同一ユーザーID がある場合は、重複しないユーザーID によりマスタ管理者を作成します。

(2) 併合を行うため併合先のバージョンに合わせる必要があります。また、併合元は非グループ診療構成でなければいけません。

(3) 併合元のデータを作成するためのスクリプトを以下よりダウンロードします。

```
$ wget https://ftp.orca.med.or.jp/pub/etc/tools/hospmerge-ver520.tgz
```

```
( md5sum 3d8584e56195a8835a9d5b13faab9018 hospmerge-ver520.tgz )
```

※このファイルは日レセバージョン 5.2.0 に対応したものです。

(4) 日レセを終了します。

```
$ sudo systemctl stop jma-receipt
```

(5) ファイルを解凍します。

```
$ tar xvzf hospmerge-ver520.tgz
```

(6) 併合元処理を行います。

```
$ cd hospmerge-ver520
```

```
$ sudo ./jma-receipt-hospmerge-from-ver520.sh 2
```

オプションの 2 は併合先システムの orca データベースへ追加する場合の医療機関識別番号です。医療機関識別番号は必ず連番となるように指定します。

注意事項

この処理により orca データベース内のデータを変更します。処理を実行しますと元の状態には戻れなくなりますので、処理前にバックアップを採取してください。

グループ診療対応（解説）

NOTICE: orca データベースは存在します。
version 5.2.0 グループ診療 医療機関の併合処理（併合元）を行います。
医療機関識別番号：[2]

実行すると ORCA データベースの内容は変更されます。
バックアップを必ず行ってから実行してください。
よろしいですか？（y/n）

y を入力して Enter キーを押します。

orca データベースの医療機関識別番号を振り直します。
master.tbl_adrs_master
UPDATE nnnnn
～
orca データベースのダンプを行います。

ダンプファイル /var/tmp/jma-receipt-hospmerge-from-ver520.dump.gz を作成しました。
処理はすべて終了しました。

“処理はすべて終了しました。”とメッセージが表示されたら処理終了です。

(7) 併合元処理で作成されたダンプファイルを複写します。

/var/tmp/jma-receipt-hospmerge-from-ver520.dump.gz を併合先マシンで処理しますので外部媒体などに複写します。

```
$ cp -p /var/tmp/jma-receipt-hospmerge-from-ver520.dump.gz（複写先）
```

以上で併合元での作業は終了です。

12-2 併合先での併合処理

(1) 併合先システムがバージョン 5.2.0であることを確認します。

(2) 併合元のデータを併合するためのスクリプトを以下よりダウンロードします。

```
$ wget https://ftp.orca.med.or.jp/pub/etc/tools/hospmerge-ver520.tgz
```

```
( md5sum 3d8584e56195a8835a9d5b13faab9018 hospmerge-ver520.tgz )
```

※このファイルは日レセバージョン 5.2.0に対応したものです。

(3) 日レセを終了します。

```
$ sudo systemctl stop jma-receipt
```

(4) ファイルを解凍します。

```
$ tar xvzf hospmerge-ver520.tar.gz
```

(5) 併合元で作成した各種ファイルを複写します。パーミッションも変更します。

```
$ cp -p (複写元ポイント)/jma-receipt-hospmerge-from-ver520.dump.gz /var/tmp/  
$ chmod 644 /var/tmp/jma-receipt-hospmerge-from-ver520.dump.gz
```

(6) 併合先処理を行います。

```
$ cd hospmerge-ver520  
$ sudo ./jma-receipt-hospmerge-to-ver520.sh
```

注意事項

- (1) この処理により orca データベース内のデータを変更します。処理を実行しますと元の状態には戻れなくなりますので、処理前にバックアップを採取してください。
- (2) データベースのエンコード方式と移行元で採取したダンプファイルのエンコード方式が処理できない組合せの場合は処理を中止します。

orca データベースは存在します。

version 5.2.0 グループ診療 医療機関の併合処理（併合先）を行います。

実行すると ORCA データベースの内容は変更されます。

バックアップを必ず行ってから実行してください。

よろしいですか？ (y/n)

y を入力して Enter キーを押します。

```
DATABASE orca ENCODING [ EUC_JP ]
ダンプファイル ENCODING [ EUC_JP ]
orcahospmerge データベースを作成しました。
orcahospmerge データベースへダンプデータをリストアします。
ERROR: must be owner of extension plpgsql ←このエラーは問題ありません
orca データベースへダンプデータを併合します。
master.tbl_adrs_master テーブルを併合します ..
併合しました。
～
マスタ管理を併合します。
master.tbl_mstkanri_master テーブルを併合します ..
併合しました。
orcahospmerge データベースを削除しました。
処理はすべて終了しました。
```

“処理はすべて終了しました。”とメッセージが表示されたら処理終了です。

(7) /var/log/jma-receipt/jma-receipt-hospmerge-to-ver520.log を確認します。

システムユーザーで重複があった場合は、

NOTICE: 併合元のユーザー (userid) は併合できません。

と記録されています。これは、システムユーザーテーブル(tbl_sysuser)についての処理でありシステム管理マスタテーブル(tbl_syskanri)の職員情報が削除されたわけではありません。ですが、システムユーザーテーブルにユーザー名が登録されていないのでログインすることはできません。

(8) 日レセを起動します。

```
$ sudo systemctl start jma-receipt
```

(9) 管理者の確認をします。

医療機関識別番号1のスーパーバイザー権限のユーザーで接続します。

プログラム更新ボタン、マスタ更新ボタンをクリックして画面が表示できることを確認します。

次に併合元の管理者権限のユーザーで接続します。

プログラム更新ボタンが非活性であること、マスタ更新ボタンをクリックして画面が表示できることを確認します。

(10) 以上で併合処理は終了です。

1 3. 医療機関の削除設定方法

2 つ目以降の医療機関を削除する方法を説明します。

医療機関識別番号が「1」の医療機関を削除することはできません。

(1) orca データベースのバックアップを行います。

削除処理により orca データベースを更新します。処理を行うと元の状態には戻れませんので、バックアップを採取します。

```
$ sudo -u orca pg_dump -Fc orca > orca.dump (バックアップファイル名は任意です)
```

(2) データを削除作成するためのスクリプトを以下よりダウンロードします。

```
$ wget https://ftp.orca.med.or.jp/pub/etc/tools/hospdel-ver520.tgz
```

```
( md5sum 66470c2f4cf7b4c70fbb2c6580042b3d hospdel-ver520.tgz )
```

※このファイルは日レセバージョン 5.2.0 に対応したものです。

(3) 日レセを終了します。

```
$ sudo systemctl stop jma-receipt
```

(4) ファイルを解凍します。

```
$ tar xvzf hospdel-ver520.tgz
```

(5) 削除処理を行います。

```
$ cd hospdel-ver520  
$ sudo ./jma-receipt-hospdel-ver520.sh 2
```

オプションの [2] は orca データベースから削除する医療機関識別番号を指定します。

version 5.2.0 グループ診療 医療機関の削除処理を行います。
実行すると ORCA データベースの内容は変更されます。
バックアップを必ず行ってから実行してください。
よろしいですか？ (y/n)

y を入力して Enter キーを押します。

グループ診療構成 医療機関削除処理 2021/05/10 13:00:00

本院分院グループのクリア処理を開始します。

2021/05/10/13:00:01 P:dbstub_main.c:257:module ORCBGRPHOSPDEL: 02

ORCBGRPHOSPDEL:[2005]: システム基本 更新件数 [000000]

ORCBGRPHOSPDEL:[2006]: システム管理 更新件数 [000004]

ORCBGRPHOSPDEL:[2007]: 同一患者識別 削除件数 [000000]

本院分院グループのクリア処理が終了しました。

ユーザー情報を削除します。

TBL_PASSWD : DELETE 3

TBL_SYSUSER : DELETE 3

HOSPNUM 列があるテーブルから指定した医療機関識別番号のデータを削除します。

tbl_mstkanri_master : DELETE 0

tbl_access_key : DELETE 0

:

tbl_yykeexample : DELETE 0

処理はすべて終了しました。 2021/05/10 13:00:50

“処理はすべて終了しました。”とメッセージが表示されたら処理終了です。

(6) /var/log/jma-receipt/jma-receipt-hospdel-ver520.log を確認します。

本院分院グループのクリア処理とは、削除する医療機関が本院分院グループの対象である場合、本院分院グループ内の他の医療機関のデータの中から、以下の関係を表すものを初期化します。
関係を表すもの

- ・ システム基本 (TBL_SYSBASE) : 本院分院グループ番号、本院分院区分
- ・ システム管理 (TBL_SYSKANRI) : 他院ログインID
- ・ 同一患者識別 (TBL_PTSAME) : 自院と他院の同一患者を紐づけるためのデータ

(7) 日レセを起動します。

```
$ sudo systemctl start jma-receipt
```

(8) 削除されたことを確認します。

削除した医療機関で使用していたユーザ名（オペレーターID）で glclient2（又は monsiaj）より接続を行いログインできないことを確認します。

本院分院グループの場合は、関係する他の医療機関にログインし、システム管理の職員情報から

グループ診療対応（解説）

他院のログイン情報、同一患者の紐づけ情報がクリアされていることを確認します。

(9) 以上で削除処理は終了です。

1 4. 医療機関の抽出設定方法

2 目以降の医療機関を抽出し、単医療機関として運用可能なデータベースダンプファイルを作成する方法を説明します。

医療機関識別番号が「1」の医療機関を抽出することはできません。

(1) orca データベースのバックアップを行います。

```
$ sudo -u orca pg_dump -Fc orca > orca.dump （バックアップファイル名は任意です）
```

(2) データを抽出作成するためのスクリプトを以下よりダウンロードします。

```
$ wget https://ftp.orca.med.or.jp/pub/etc/tools/hospext-ver520.tgz
```

```
（ md5sum 54cafc1a4987f5981885546a1e2b1ea9 hospext-ver520.tgz ）
```

※このファイルは日レセバージョン 5. 2. 0 に対応したものです。

(3) 日レセを終了します。

```
$ sudo systemctl stop jma-receipt
```

(4) ファイルを解凍します。

```
$ tar xvfz hospext-ver520.tgz
```

(5) 抽出処理を行います。

```
$ cd hospext-ver520  
$ sudo ./jma-receipt-hospext-ver520.sh 2
```

オプションの [2] は orca データベースから抽出する医療機関識別番号を指定します。

version 5. 2. 0 グループ診療 医療機関の抽出処理を行います。
バックアップを必ず行ってから実行してください。
よろしいですか？ (y/n)

y を入力して Enter キーを押します。

```
グループ診療構成 医療機関抽出処理 2021/05/10 13:00:10
DATABASE testtext ENCODING [ xxxx ]
master スキーマを複写します。
orca が保有するテーブル一覧を取得します。
monbatch : nothing
monbatch_log : nothing
monblob : nothing
tbl_access_key :
:
tbl_yyexample :
orca が保有するビュー一覧を取得します。
view_q004 :
:
tbl_byomei :
orca が保有するシーケンスを複写します。
最終調整を行います。
2021/05/10/13:02:50 P:dbstub_main.c:257:module ORCBGRPLOGINDEL: 01
ORCBGRPLOGINDEL:[2006]: システム管理 更新件数 [ 000002 ]
抽出により作成したデータベースのダンプを作成します。
ダンプファイル ( /var/tmp/orcahospext-520.dump ) を作成しました。

処理はすべて終了しました。 2021/05/10 13:03:10
```

“処理はすべて終了しました。”とメッセージが表示されたら処理終了です。

- (6) /var/log/jma-receipt/jma-receipt-hospext-ver520.log を確認します。

最終調整では、抽出したデータベースでの ormaster の登録、グループ診療設定のクリア、システム管理の他院ログインID情報のクリアなどを行います。

- (7) 抽出処理に作成されたデータベースダンプファイルを確認します。

ダンプファイルは、/var/tmp/orcahospext-520.dump として作成しています。

このダンプファイルを別環境の日レセシステムのデータベースへリストアして運用が可能となります。

スーパーバイザーormaster は元の環境から複写していますので、パスワードも同じ内容で設定しています。

- (8) 元の環境での後処理を確認します。

抽出処理では、元の環境のデータベースからデータを抽出して別データベース（orcahospext）

グループ診療対応（解説）

を作成しています。よって、元の環境のデータベースには抽出したデータは削除されず残っています。削除しても問題ない場合は、「医療機関の削除設定方法」を参照して削除してください。また、抽出のため作成されたデータベース（orcahospept）も残りますので、削除しても問題ない場合は削除します。

```
$ sudo -u orca dropdb orcahospept
```

(9) 以上で抽出処理は終了です。

15. グループ診療でのデータ移行処理方法

グループ診療における医療機関識別番号2以降の医療機関についてデータ移行を行う方法について説明します。

“12. 医療機関の併合設定方法”で併合方法について説明しました。この方法を利用してグループ診療でのデータ移行処理を行います。

(1) グループ診療のシステム環境とは別のシステム環境に日レセをセットアップし、通常 of データ移行処理を行います。

実際に単独の医療機関として運用可能な状態になるまでセットアップします。

(2) このシステム環境を併合元システムとみなし、“12. 医療機関の併合設定方法”の併合方法でグループ診療のシステム環境に併合します。

(3) 以上がグループ診療でのデータ移行処理方法です。

16. 本院分院機能のセットアップと操作方法

本院分院機能は、グループ診療構成の上で動作します。

ここでの解説は、「11. 医療機関の追加設定方法」あるいは「12. 医療機関の併合設定方法」によりグループ診療構成とした日レセシステムがあることを前提としています。

16-1 セットアップ

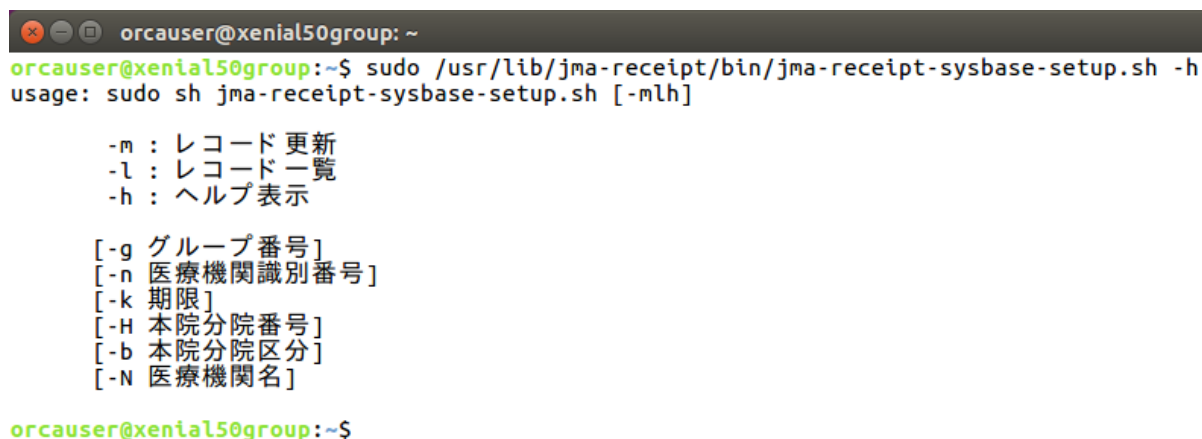
本院分院設定をスクリプトの実行により行います。

※スクリプト内の文字コードはUTF-8としていますので、ターミナルエミュレータの文字コードは“Unicode (UTF-8)” にしてください。

(1) スクリプトのヘルプ表示

オプション” -h” を指定するとオプションの説明について表示します。

```
$ sudo /usr/lib/jma-receipt/patch-lib/scripts/tools/jma-receipt-sysbase-setup.sh -h
```



```
orcauser@xenial50group: ~  
orcauser@xenial50group:~$ sudo /usr/lib/jma-receipt/bin/jma-receipt-sysbase-setup.sh -h  
usage: sudo sh jma-receipt-sysbase-setup.sh [-mlh]  
  
-m : レコード更新  
-l : レコード一覧  
-h : ヘルプ表示  
  
[-g グループ番号]  
[-n 医療機関識別番号]  
[-k 期限]  
[-H 本院分院番号]  
[-b 本院分院区分]  
[-N 医療機関名]  
  
orcauser@xenial50group:~$
```

グループ診療対応（解説）

(2) システム基本テーブルの内容表示

オプション ”-l”（小文字のエル）を指定するとシステム基本テーブルの内容を確認できます。

```
$ sudo /usr/lib/jma-receipt/patch-lib/scripts/tools/jma-receipt-sysbase-setup.sh -l
```

```
orcauser@xenial50group: ~
orcauser@xenial50group:~$ sudo /usr/lib/jma-receipt/bin/jma-receipt-sysbase-setup.sh -l
2017/01/31/13:29:37 P:dbstub main.c:257:module ORCBSETSYSBASE: lst,,,,,
グループ|医療機関|期 限|本分院|本分院|医療機関名
番 号|識別番号| |番 号|区 分|(下段: システム管理)
-----+-----+-----+-----+-----+-----
01      01      99999999  00      0      *
          医療法人 オルカ医院
02      02      99999999  00      0      *
          医療法人 オルカ分院
orcauser@xenial50group:~$
```

この結果から、orcaデータベースには医療機関識別番号が01と02の2つの医療機関が登録されていることが確認できます。

- ・ 本分院番号 … 本院分院のグループを管理する番号です。
1からの連番で設定を行います。
- ・ 本分院区分 … 本院分院の関係がある場合に本院または分院を識別する区分です。
0：本院分院でない
1：本院である
2：分院である

(3) システム基本テーブルの更新

オプション”-m”（小文字のエム）を指定するとシステム基本テーブルを更新できます。

その他のオプションを指定することにより更新を行う項目を指定します。

- g : グループ番号
- n : 医療機関識別番号
- k : 期限
- H : 本分院番号
- b : 本分院区分
- N : 医療機関名

医療機関識別番号01の医療機関を本院として設定するには

```
$ sudo /usr/lib/jma-receipt/patch-lib/scripts/tools/jma-receipt-sysbase-setup.sh -m
-n 01 -H 01 -b 1
```

と入力します。

グループ診療対応（解説）

医療機関識別番号02の医療機関を分院として設定するには

```
$ sudo /usr/lib/jma-receipt/patch-lib/scripts/tools/jma-receipt-sysbase-setup.sh -m  
-n 02 -H 01 -b 2
```

と入力します。

※本院分院番号はそれぞれ01を設定します。

設定内容を確認します。

```
$ sudo /usr/lib/jma-receipt/patch-lib/scripts/tools/jma-receipt-sysbase-setup.sh -l
```

```
orcauser@xenial50group: ~  
orcauser@xenial50group:~$ sudo /usr/lib/jma-receipt/bin/jma-receipt-sysbase-setup.sh -l  
2017/01/31/13:32:36 P:dbstub_main.c:257:module ORCBSETSYSBASE: lst,,,,,  
グループ|医療機関|期 限|本分院|本分院|医療機関名  
番 号|識別番号| |番 号|区 分|(下段: システム管理)  
-----  
01      01      99999999  01      1      *  
          医療法人 オルカ医院  
02      02      99999999  01      2      *  
          医療法人 オルカ分院  
orcauser@xenial50group:~$
```

このように表示されたら、正しく設定できたことになります。

この設定により、各医療機関が本院分院の関係としてシステムに認識されるようになります。

これ以降、資料内では

本院：オルカ本院（医療機関識別番号01）

分院：オルカ分院（医療機関識別番号02）

として解説します。

グループ診療対応（解説）

16-2 医療機関の短縮名称設定

本院分院機能により新たに追加された画面で医療機関名称を表示する際に、既存の医療機関名称では末尾が切れる場合がありますので、表示桁数を全角5文字までとした短縮名称を登録します。本院分院それぞれの医療機関にログインし、システム管理の管理番号1001「医療機関情報－基本」画面より設定します。

The screenshot shows a web application window titled '(W02)システム管理情報-医療機関情報入力 - 医療法人 オルカ本院 [ormaster]'. The interface includes a top navigation bar with tabs like '基本情報', '連絡先情報', '広告情報', etc. The '基本情報' tab is active. The form contains various input fields for hospital details. Key fields include: '都道府県番号' (13 東京), '点数表' (1 医科), '医療機関コード' (1234567), '医療機関種別' (2 診療所), '医療機関ID' (JPN00000000000000), '医療機関名称' (医療法人 オルカ本院), '開設者名' (オルカ), '管理者氏名 (院長)' (オルカ シャチ), '病床数 (許可)' (0), '病床数 (一般)' (0), '老人支払区分' (2 定額), '旧総合病院フラグ' (0 旧総合病院でない), '院外処方区分' (0 院内), '医療機関コード (漢字)' (1 2 - 3 4 5 6 - 7), '分機管理番号' (empty), '請求書発行フラグ' (1 発行する), '院外処方せん発行フラグ' (1 発行する), '前回処方表示フラグ' (1 表示しない), '薬剤情報発行フラグ' (0 発行しない), '診療費明細書発行フラグ' (0 発行しない), 'お薬手帳発行フラグ' (0 発行しない), '予約票発行フラグ' (0 発行しない), 'データ収集作成フラグ' (0 作成しない), 'データ収集提出方法区分' (0 提出しない), 'ORCAサーベイランス区分' (0 作成しない). On the right side, there are several dropdown menus for insurance and payment related settings, such as '減免計算対象区分' (1 自費分を含む), '請求額端数区分 (減免有)' (1 10円未満四捨五入), '請求額端数区分 医保 (減免無・保険分)' (4 10円未満端数処理なし), '労災 (減免無・保険分)' (4 10円未満端数処理なし), '自賠責 (減免無・保険分)' (4 10円未満端数処理なし), '公害 (減免無・自費分)' (4 10円未満端数処理なし), '第三者行為 (減免無・保険分)' (4 10円未満端数処理なし), '第三者行為 (減免無・自費分)' (0 保険分に準ずる), '第三者行為 (医療費) 負担金額計算区分' (2 負担金額10円未満端数処理なし), '消費税端数区分' (2 1円未満切り捨て), '自費保険集計先区分' (1 保険分欄 (負担金額四捨五入)), '地方公費保険番号タブ区分' (0 無効), and '更生・育成限度額日割計算' (1 日割計算しない). At the bottom, there are buttons for '戻る', '削除', and '登録'.

本院の短縮名称を「オルカ**本院**」とした登録画面

グループ診療対応（解説）

分院の短縮名称を「オルカ分院」とした登録画面

16-3 他院へのログイン機能

本院分院設定が完了するとマスターメニュー及び業務メニューの環境設定画面、または、診療行為画面より「本院から分院へのログイン」「分院から本院へのログイン」の相互ログインが可能となります。

この機能を使用する場合には、事前に本院分院間で相互にログインを行なうための職員情報設定が必要となります。

※相互ログイン機能を使用されない場合は設定の必要はありません。

自院で必要な作業

他院にログインを行なう職員についてシステム管理の管理番号1010「職員情報」より他院ログイン時のオペレータIDを設定します。

この登録は職員情報設定画面の他院設定タブ画面より行います。

グループ診療対応（解説）

上記画面はオルカ本院（医療機関識別番号01）の職員がオルカ分院（医療機関識別番号02）にログインした際、オペレータID“DR2”と認識できるように設定した例です。また、オルカ分院（医療機関識別番号02）からオルカ本院（医療機関識別番号01）へログインするための他院オペレータIDも分院側で設定が必要です。

環境設定画面からの他院ログイン

マスターメニューの環境設定画面の他院切替タブ画面より、選択した医療機関へのログインが可能です。

グループ診療対応（解説）



業務メニューの環境設定画面からも同様の操作が可能です。

診療行為画面からの他院ログイン

診療行為入力画面から他院へ切り替える場合は患者番号欄に識別子“@”＋「他院の医療機関識別番号」（数字2桁）を入力することで可能です。

例えば本院（医療機関識別番号01）から分院（医療機関識別番号02）に切り替える場合は

@02

と入力し「Enter」を押下することで切り替わります。



医療機関識別番号が分からない場合は、環境設定画面の他院切替タブ画面で医療機関名称の左に表示される2桁の数字で確認できます。

グループ診療対応（解説）

16-4 新患登録時の他院患者複写機能

患者の新規登録時に同一本院分院グループ内の他医療機関で既に同じ患者が登録がされている場合、患者複写が可能となります。

患者の新規登録時に生年月日まで入力したタイミングで、同一本院分院グループ内の他院に同じ氏名・性別・生年月日の患者が登録済みであれば、「グループ医療機関内登録済リスト」画面を表示します。

リスト画面より患者を選択後、「F12 複写開始」ボタンを押下することで、患者情報の複写を行います。

「グループ医療機関内登録済リスト」を表示するには事前にシステム管理の管理番号1017「患者登録機能情報」の「グループ医療機関内同一患者名リスト」を「1 表示する」と設定しておく必要があります。

※システムインストール時の初期値は「0 表示しない」と設定されています。

システム管理「1017 患者登録機能情報」のグループ医療機関内同一患者名リスト設定

本院で登録済みの患者【患者番号：00071，患者氏名：ホンイン カンジャ，性別：男，生年月日：S 4 3. 2. 2】を、分院での新患登録時に「グループ医療機関内登録済リスト」に表示した画面は次のような表示になります。

グループ診療対応（解説）

The screenshot displays the 'Patient Registration' window in the ORCA Project software. The main window is titled '(P02)患者登録 - 患者登録 - 医療法人 オルカ分院 [ormaster2]'. It contains various input fields for patient information, including name, sex, date of birth, insurance details, and medical history. A modal window titled '(P02G)患者登録-グループ医療機関内登録済リスト' is overlaid on the main form. This modal window contains a table with columns: '番号', '患者番号', '患者氏名', '生年月日', '住所', '電話番号', and '医療機関名'. The table lists one entry with patient number 00071, name '本院 患者', and address 'S43. 2. 2 東京都文京区本駒込'. Below the table are buttons for '選択番号' (selected number), 'F1 戻る' (F1 Back), and 'F12 複写開始' (F12 Copy Start). The main form also has a 'F12 複写開始' button at the bottom right.

選択番号入力（またはマウスによる選択）後に、「F12 複写開始」ボタンを押下することで確認メッセージが表示されますので、続けて F 1 2 キーを押下することで患者内容が複写されます。

他院登録済みの患者から患者複写を行った場合は、以下の項目を複写します。

- ・ 患者基本情報
- ・ 連絡先等
- ・ 保険情報
- ・ 公費情報
- ・ 所得者情報（公費負担額設定は除く）

※保険情報・公費情報・低所得者情報は当日に有効な情報のみ複写します。

複写対象外項目

減免事由・割引率・状態・入金方法・請求書発行区分については各医療機関毎のシステム管理に登録された設定が異なる事を想定し複写対象とはしません。

保険情報については、自費保険・労災保険・自賠責保険の複写はしません。

- ・ 自費保険・・・各医療機関の保険番号マスタ設定によるため。
- ・ 労災保険・自賠責保険・・・各医療機関のシステム管理設定によるため。

グループ診療対応（解説）

患者複写後の状態

複写後は自院内での患者複写と同様に変更箇所を入力後、「登録」ボタンを押下で患者の登録を行います。

他院登録情報からの患者複写を行った患者については、患者登録画面及び診療行為入力画面の上部に他院に同一患者が存在することを表す緑字【他】の文字を表示します。同日に他院で受診があった場合には診療行為入力画面に赤字【他】の文字の表示に切り替えます。

患者複写により自院と他院の患者が関連付け（紐付け）された結果については、「患者紐付け」ボタンを押下することにより「グループ医療機関内患者紐付けリスト」画面で確認が可能です。

16-5 患者複写画面での他院患者複写機能

新患の患者番号を採番後、「患者複写」ボタンを押下します。

患者複写画面が表示されたら「F3 患者紐付け複写」ボタンを押下し、画面右上の医療機関選択コンボボックスで複写元医療機関を選択した後、コピー元の患者番号を入力します。

(P02E)患者登録-患者複写画面

コピー元患者: 00071 <患者紐付け複写> 01 オルカ本院

氏名: 本院 患者

生年月日: S43. 2. 2 46才 性別: 男

住所: 東京都文京区本駒込

保険	保険者番号	記号	番号	公費	負担者番号	受給者番号
協会	01130012					

F1 戻る F3 患者複写 F9 氏名検索 F12 複写開始

コピー元患者の表示内容を確認し、問題が無ければ引き続き「F12 複写開始」ボタンを押下することで患者内容が複写されます。

複写時の動作については「14-4 新患登録時の他院患者複写機能」で解説した動作と同様です。

グループ診療対応（解説）

16-6 本院分院で関連付け（紐付け）された患者の禁忌薬剤複写機能

本院分院で関連付け（紐付け）された患者については禁忌薬剤について他院での登録内容を参照複写が可能となります。

患者登録画面より「禁忌薬剤」ボタンを押下し、「F9 他院患者」ボタンにより該当患者の他院での禁忌薬剤登録が参照できます。

番号	コード	入力CD	薬剤名称	有効終了日	品名移行	投与開始	禁忌開始
1	612120358		アンカロン錠 100 100mg	99999999			

他院での禁忌薬剤を表示した状態で、「F10 他院複写」ボタンを押下することで他院の禁忌薬剤を複写できます。

最後に患者登録画面で「登録」ボタン押下することにより禁忌薬剤の複写は完了です。

グループ診療対応（解説）

16-7 本院分院で関連付け（紐付け）された患者のD O検索機能

本院分院で関連付け（紐付け）された患者についてはD O検索時に他院での診療内容を参照する事が可能となります。

診療行為画面より「D O」ボタン押下により表示される「診療行為選択」画面にて、画面右上部のコンボで参照する医療機関を選択（または「F3 他院情報」を押下）することにより他医療機関での同患者の診療内容を表示します。

使用方法是通常のD O検索と同様です。

画面表示例：オルカ分院（医療機関識別番号02）の診療行為選択画面で本院の診療内容を表示
本院（オルカ本院）に登録済みの診療内容

- ・“H26.11.10”に投薬と検査

グループ診療対応（解説）

16-8 既に登録済みの患者を本院分院で関連付け（紐付け）する方法

既に登録済みの患者について他院登録患者との関連付けを改めて行うには、「患者紐付け」ボタンを押下し表示される「グループ医療機関内患者紐付けリスト」画面で設定が可能です。

(P02)患者登録 - 患者登録 - 医療法人 オルカ分院 [ormaster2]

00002 てすと 患者 男 S40. 4. 3 旧姓

受付 基本情報 保険組合履歴 連絡先等 所得者情報 入力履歴 特記事項・レセプト分割 その他

カナ氏名 テスト カンジャ 性別 1 男 死亡区分 通名

漢字氏名 てすと 患者 生年月日 S40. 4. 3 49才 0 カルテ発行なし 0 U・P指示なし 0 患者

保険者番号 130013 本人家族 1 本人 補助 記号 番号 資格取得日 有効 被保険者名 てすと 患者 負担者番号 公費の種類 住所 電話 自宅 世帯主名 てすと 患者 領収・明細 禁忌 アレルギー 感染症 コメント

保険組合 H25. 1. 1 ~ 9999999 01 内科 入金方法 01 現金 出生時体重 g

F1 戻る F2 クリア F9 紐付解除 F12 登録

- ①関連付けを行いたい医療機関を選択し、紐付患者番号欄に患者番号（※）を入力します。
（※）患者番号は相手方医療機関で登録されている患者番号となります。

(P02G2)患者登録-グループ医療機関内患者紐付けリスト

番号	医療機関名称	患者番号	氏名
----	--------	------	----

01 オルカ本院 紐付患者番号 00001

氏名 てすと 患者 S40. 4. 3 男

住所 東京都文京区本駒込 123-4

F1 戻る F2 クリア F9 紐付解除 F12 登録

グループ診療対応（解説）

- ②表示された氏名、生年月日、住所を確認し、問題がなければ「F12 登録」ボタン押下により紐付け登録を行います。

番号	医療機関名称	患者番号	氏 名
1	オルカ本院	00001	てすと 患者

01 オルカ本院 紐付け患者番号

氏 名

住 所

F1 戻る F2 クリア F9 紐付け解除 F12 登録

- ③「F1 戻る」ボタン押下により、「グループ医療機関内患者紐付けリスト」を終了し、最後に患者登録画面で「登録」ボタンを押下します。

16-9 本院分院での関連付け（紐付け）を解除する方法

他院登録患者との関連付けを解除を行う場合は、「患者紐付け」ボタンを押下し表示される「グループ医療機関内患者紐付けリスト」画面で「F9 紐付け解除」ボタン押下により可能です。最後に患者登録画面で「登録」ボタンを押下することにより紐付けは解除されます。

16-10 マスタ複写機能

同一本院分院グループ内の他院で登録されている入力コード、入力セット、点数マスタ（ユーザ登録分のみ）を複写可能とします。

複写処理は「52 月次統計」より行います。

事前にシステム管理の管理番号3002「統計帳票出力情報（月次）」よりプログラムを登録しておきます。

帳票名 : 本院分院マスター複写

プログラム名 : ORCBMSTCOPY

帳票パラメタ 1 : 処理区分（KBN）必須

帳票パラメタ 2 : 複写元医療機関（HOSPNUM）必須

グループ診療対応（解説）

システム管理登録後に、「52 月次統計」より処理を行います。

(G01)月次統計 - 医療法人 オルカ分院 [ormaster2]

☐ 本院分院マスター複写 * 必須 * 任意

001	処理区分 *	複写元医療機関				
002						
003						
004						
005						
006						
007						
008						
009						
010						

戻る クリア 並べ替え 統計データ 再印刷 前頁 次頁 個別指示 CSV出力 情報削除 処理結果 処理開始

パラメタ説明

・ 処理区分

- 1 : 入力コードの複写
- 2 : 点数マスタの複写
- 3 : 入力セットの複写

・ 複写元医療機関

複写元とする他院の医療機関識別番号（数字2桁）を設定します。

医療機関識別番号が分らない場合は、マスターメニュー（または業務メニュー）より、環境設定画面を表示し、他院切替タブ画面を選択します。

医療機関名称の左に表示される2桁の数字が医療機関識別番号となります。

処理実行後に「本院分院マスター複写結果リスト」が出力されますので、処理結果を確認します。

本院分院マスター複写結果リスト（複写元：オルカ本院 複写先：オルカ分院）				1 頁
番号	複写コード	名称	処理結果	
1	F00001	点滴セット	入力セットが存在しています	
2	F00002	検査セット	入力セットを複写しました	